

お金のかからないICTで 介護現場を支える

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用したNPO法人タダカヨの取り組みを紹介します。

介護事業者の サポート活動に取り組む

東京都大田区にあるNPO法人タダカヨは、介護業界の重要課題である人材不足と社会保障費の増加を解決することを目指し、「ICTを上手に使う、お金をかけずにより良い介護へ」というビジョンのもと、介護業務に有益なICTツールの普及・活用支援に取り組んでいる。

法人の設立経緯は、新型コロナウイルス感染症拡大の第1波が到来した際、「面会ができなくなった介護施設の高齢者にオンライン面会を届けたい」という想いから、有志でLINEやZOOMを活用した「オンライン面会

マニュアル」を制作し、無償公開したことに始まる。マニュアルは7万回を超えるダウンロードがあり、このような無料もしくは低コストのICTツールの普及を促進し、介護事業者をサポートする活動を発展させるため、令和2年11月にNPO法人を設立した。法人名のタダカヨは、「タダでカイゴをヨクしよう！」という想いから名付けられている。

また、理事長の佐藤拓史氏は、民間企業を退職後、同法人を設立するとともに、介護ロボットやICTの活用に関心する方々、介護現場にいる社会福祉法人善光会に入職し、介護DX部長として介護ロボットや介護ICTの研究・普及業務に従事している。現在、40人を超える法人スタッフは、活動に共感したICTに精通した介護従事者をはじめ、弁護士、税理士、動画クリエイターなどの各種専門家が集まり、全員が副業として活動に参画しているという。

介護業務に有益な ICTの普及・スキル向上を図る

同法人は、令和4年度のWAM助成を活用

ひと言

WAMから

双方向のやりとりを大事にした無料オンラインレクイベントの「タダレク」、参加者に合わせた様々なレベル・テーマでICTスキル向上のための丁寧なサポートを行う「タダスク」「タダサポ」を通じて、多くの介護事業所、介護従事者にICT利用の機会を提供することができました。広報活動や期中での活動の見直しをはじめ、事業の中には様々な工夫が見られます。従来の丁寧な支援を維持し、さらに多くの介護従事者へICTを広げていくことを期待します。

し、「ICTで、介護の生産性向上と要介護者・家族の繋がりを蘇らせる事業」を実施した。同事業は、介護施設・介護従事者のICT活用を促進することを目的に、①高齢者施設向け無料オンラインレクイベント「タダレク」事業、②無料オンラインPCスクール「タダスク」事業、③無料個別ITサポート「タダサポ」事業を行った。

事業を実施した経緯について、佐藤理事長は次のように説明する。

「もともと、高齢者施設向けのオンラインレクイベント『タダレク』は、コロナ禍の自粛生活により、『入所施設の高齢者の会話がなくなった』『BPSDが悪化した』という話があり、高齢者に楽しさを届けたいという想いから開始したところ、大きな反響がありまし



た。WAM助成を活用して全国に活動を広げると同時に、ZOOMなどのICTツールを活用するきっかけになればと考えました。また、中小規模の介護事業所では、ICTのスキルを身に付けたくても、教える人がいなかったり、一般のパソコン教室に通っても介護現場の事務作業や介護ソフトの応用ができないというケースがあります。そのため、介護従事者を対象にしたオンラインPCスクールを開催し、介護業務に活かせるICTスキルを習得してもらうことに取り組みました」。

オンラインイベントを通じてICTツールの活用を促進

高齢者施設向け無料オンラインレクイベントの「タダレク」事業は、全国各地の入所施設・通所介護事業所とZOOMでつなぎ、オンラインによるレクリエーションプログラム



全17回開催した「タダレク」事業は、全国の介護事業所とZOOMでつなぎ、体験型のレクリエーションプログラムを提供。延べ8534施設（約16万人）が参加した



を提供。助成期間中に17回開催し、延べ8534施設、約16万人の要介護高齢者と介護職員が参加した。

イベントの周知方法としては、FAXによるダイレクトメールを行い、多くの参加者を集めることができたという。

「ICTの普及が目的であるのに対し、FAXというアナログな方法は相反するイメージがあるかも知れません。しかし、私自身も介護事業所で働き、現在でもFAXは主な連絡手段として用いられ、必ずチェックされることを知っているため、広報活動に使用しました。その結果、北海道から沖縄県までの事業所から申し込み

事業概要

助成額

419万7千円



WAM 助成
e-ライブラリー

令和4年度事業

NPO 法人タダカヨ

ICTで、介護の生産性向上と要介護者・家族の繋がりを蘇らせる事業

【事業概要】

介護業界が抱える課題である「人材不足」、「社会保障費の増加」の解決を目的に、介護業務に有益な無料ITツールの導入支援をはじめ、介護従事者向けのオンラインPCスクール、個別ITサポートを実施し、ICT活用を促進する事業



【実施内容】

- ◆高齢者施設向け無料オンラインレクイベント「タダレク」事業
ZOOMを活用した双方向型のレクリエーションイベントを開催し、介護事業所のICT活用を促進
- ◆無料オンラインPCスクール「タダスク」事業
介護従事者を対象に、介護業務に活かせる実践的なICT活用方法をレクチャーするオンラインPCスクールを開催
- ◆無料個別ITサポート「タダサポ」事業
ICT初心者や個別の相談を希望する介護従事者に対し、一人ひとりに寄り添った個別サポートを実施



【成果】

- ◆年間17回開催した「タダレク」事業は、延べ8534施設（約16万人）が参加した。事業をきっかけにZOOMを活用した施設は1827カ所におよび、ICTの活用促進とともに、家族とのオンライン面会の普及に寄与した
- ◆年間188回開催した「タダスク」事業は、書類作成の機会が多いケアマネジャーを中心に延べ5091人が受講した。参加者が気軽に受講できるようにICTレベル別にクラスを分け、ICT初心者にはサポート担当講師が個別にフォローしながら学べる体制をつくった

助成事業の波及効果として、「タダスク」の受講者が学んだ内容をもとに、それぞれの地域で同様のオンラインPCスクールを開催したケースが10例以上あった。また、デジタル庁から実施事業について問合せがあり、同庁がデジタルデバイス解消のために推進しているデジタル推進委員普及支援団体に認定され、「タダスク事業」の講師が推進委員として参画することとなった



があり、多くの参加につながりました。HPやSNS等でも発信していますが、FAXがいちばん効果がありました」（佐藤理事長）。レクリエーションのプログラムでは、健康増進・介護予防に関する体操や音楽レクリエーションなどで著名な講師のほか、お笑い芸人やマジシャンなどに出演してもらい、参加型の体験プログラムを実施した。

プログラムの特色について、同法人理事・「タダレク」事業担当の市川博基氏は次のように説明する。



『タダレク』事業は、高齢者に楽しみを届けるとともに、介護に有益なICTを普及させるという2つの目的があります。そのため、一方通行のライブ配信ではなく、クイズ大会を盛り込んだり、音楽レクリエーションでは参加者にリクエスト曲を選んでもらうなど、双方のやりとりを大切にしながら、一緒にプログラムをつくる内容としています。実際に参加した介護施設の職員からは、『利用者の会話がはずみ、盛り上がりがあった』、『こんなに楽しいレクリエーションに簡単に参加できることを知った』といった声が寄せられました。ZOOMがこんなに便利で簡単に利用できるなら、そのほかのICTツールも活用してみようと考えてもらえるきっかけになっています」。

介護従事者向けの オンラインPCスクールを開催

介護従事者のICT活用スキル向上を目



介護従事者のICT活用スキルの向上を目的とした「タダスク」事業（全188回）は、書類作成機会の多いケアマネジャーを中心に延べ5091人が受講



的にした無料オンラインPCスクール「タダスク」事業は、全国の介護従事者とZOOMをつなぎ、オンラインで介護事業所の実践的なICT活用方法をレクチャーした。

「タダスク」事業は、年間188回開催し、介護従事者のなかでも書類作成の機会が多い居宅介護支援のケアマネジャーを中心に延べ5091人が受講した。受講者は個人による申し込みのほか、介護施設の複数の介護職員が一緒に参加するケースもあったという。

実施体制は、法人スタッフ40人のうち22人が「タダスク」事業の講師を務め、それぞれが得意な領域に関する講義テーマを企画し、受講者に興味のある講義に申し込んでもらうかたちとなっている。講義時間は基本1時間で、開催時間は講師全員に本業があることから、休憩時間の昼12時、勤務後の夜19時の時間帯に開催している。

主な講義テーマとしては、基本的なExcel操作をはじめ、パワーポイントを使用した資料作成、入力業務を効率化するパソコンのショートカットキーの使い方、介護業務に役立つスマホ活用術、Googleドライブによるパーレース管理術など、介護業務に活かせる実践的なテクニックをレクチャーした。

「タダスク事業」について、講師担当の谷本誠二氏は次のように説明する。「講義の内容としては、

実際に受講者にICTツールを操作してもらい、それを講師がZOOMの遠隔機能を使い、フォローしながら進める体験型となっています。例えば、スマホ活用術では、介護事業所は多くのFAXが届きますが、FAXをデジタル化するアプリの活用方法などを受講者全員で操作してスキルを身につけてもらっています。また、受講者はそれぞれにICTレベルが異なるなか、気軽に参加してもらえるように、ZOOMの『ブレイクアウトルーム機能』を使い、レベル別にクラスを分けています。受講者が講義についていくことが難しい場合は、レベル別のクラスのほかにサポート部屋をつくり、配置した担当講師が個別にフォローしています」。

利用者に寄り添った 個別サポートを実施

さらに、無料個別ICTサポート「タダサポ」事業では、ICT初心者で「タダスク」でスキルを習得できなかったり、個別のアドバイス希望する介護従事者に対し、一人ひとりに寄り添った個別サポートを行った。

「当初、『タダサポ』は申し込みが少なく、要因を確認するため利用者にヒアリングを行ったところ、『大人数のPCスクールでは質問しづらい』、『申し訳ない気持ちがある』などの意見がありました。このような声に対応するため、『タダスク』と『タダサポ』の間規模となる参加者20人前後の『ミニPCスクール』として、さまざまなテーマ・レベルごとに開催する形態に変更しました。



助成事業の成果として、多くの介護事業所に介護従事者に「タダレク」と「タダスク」に参加をしてもらうことでICT活用を促進することができた。

『タダレク』事業への参加をきっかけにZOOMを初めて活用した介護事業所は1827カ所におよび、家族とのオンライン面会の普及にもつながりました。また、『タダスク』事業についても、直近の月間受講者数が1480人と増加し続けています。最大手のパソコン教室の受講者は約1万5000

日本一のパソコン教室を目指す

少人数でコミュニケーションが図りやすく、さらに個別サポートの「タダサポ」につながりやすくなるなど、すべての事業が循環するようにになりました。現在は、この開催形態が基本となっています」（佐藤理事長）。



「タダサポ」事業では、ICT初心者に対し、一人ひとりに寄り添った個別サポートを実施。写真は利用者に印刷方法を教えている様子



「タダスク」事業講師担当
谷本 誠二氏



理事「タダレク」事業担当
市川 博基氏

継続的な事業運営が可能に



NPO 法人タダカヨ
理事長 佐藤 拓史氏

WAM 助成では、介護事業所と介護従事者のICT活用のきっかけづくりを目的に「タダレク」と「タダスク」を開催し、多くの参加者を集めることができました。その一方で、全国には介護事業所が約24万件、介護従事者は200万人以上いることを考えると、さらに届けていかなくてはならないという思いが強くなっています。

また、運営面では、事業を通じて企業や関係団体と接点をもつことができ、企業からの寄付やスポンサー収入により、事業を継続的に運営する基盤をつくることができました。関係団体から講師業務の依頼をいただくことも増えており、なるべくお金をかけずに介護をより良くする活動を広げていきたいと思っています。

◆団体概要

〒143-0014
東京都大田区大森中2丁目1番20-1001号
TEL: 050-6872-9884
URL: <https://mmky310.info/>
設立: 令和2年11月
理事長: 佐藤 拓史



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくをお願いします！

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。